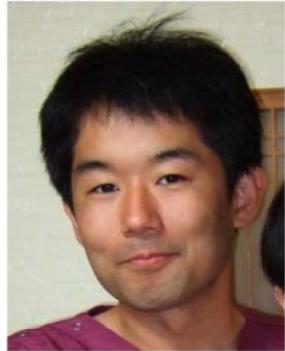


「あなたは安心して医療現場に立ち会っていますか？」（目標6）

京都大学医学部附属病院 助教 山畠佳篤



いのちをまもるPARTNERSの大きな目標は、医療の安全の確保・向上を図ることで、医療現場に「安心」を取り戻すことです。では、この文章を読んでいるあなたにお尋ねします。「あなたは安心して医療現場に立ち会っていますか？」

目標6は急変時の迅速対応の確立を目標としています。だれしも急変には出会いたくないもの。でも一言で「急変」といってもその内容は様々です。医療を提供する立場からみて、急変時の迅速対応のためには何ができるといけないでしょうか？ 医療を受ける立場からは、何が準備できていれば自分のいのちを守ってもらえるのでしょうか？

目標6で想定する「急変」は大きく分けて3種類に分類できます。1つめは予想外の状態変化。最も緊急度が高い状態は心肺停止やアナフィラキシーでしょう。予想外の急変は一定の確率で医療施設内のあらゆる場所で起こります。医療に関わるすべての人が緊急対応を実施できることが望ましいでしょう。2つめと3つめは予想可能な状態変化です。2つめは疾病の自然経過中に起こる状態変化。治療に密接に関わる医師・看護師や、治療を受ける本人・家族が事前に起こりうる状態変化を把握しておけば、いざ急変が起こった時にも落ち着いて対応できます。3つめは治療行為に伴って起こる急変。いかに治療行為自体が安全に行われていたとしても一定の確率で合併症は起こります。急変のパターンを事前予測し、緊急治療の準備まで整っていれば、より安全・安心な処置を行うことができるでしょう。

急変時の迅速対応、と聞くと、体制作りが必要なことはわかっていても、何から手を付けてよいかわからないかもしれません。そんな時はすべての内容に100点満点を求めるのではなく、まず身近な問題や、実現可能と思われることから取り組んでいくとよいでしょう。上記した3つの「急変」のどこから対策を考えるかは、あなた次第。最終的に安心して医療現場に立ち会えるようになります！